



校長室だより

令和5年
3月23日
NO. 11

秦梨小の卒業式・秦梨小の取組

春らしい暖かな日差しの中、3月20日に第七十六回卒業証書授与式が挙行されました。コロナ感染が収まってきているとはいうものの、未だ2類に位置付けられていることもあって、感染対策の観点から地域の来賓の方々を制限させていただきました。ご理解ください。

今年度の卒業生は12名でした。卒業証書を受け取る一人一人の姿は凛としていて輝いていました。そして、在校生の呼びかけ、歌。それから卒業生の言葉と歌。そこには一人一人の思いが込められているように感じられ、胸に迫るものがありました。

本校の卒業式の大きな特徴は、歌にあります。卒業生の歌、在校生の歌のいずれも、毎年その年の子供たちが歌詞を考え、木河教諭が作曲したものです。だからこそ、思いが込められた歌になっているのかもしれませんが、よりよい卒業式にするために労を厭わない本校の教職員の姿勢にも頭が下がります。他校にはない秦梨小学校が誇れることの一つです。

ご臨席くださった来賓の皆さんからも褒めていただきましたが、卒業生や在校生、教職員、みんなの思いがいっぱいにあふれた温かい卒業式になったことを何よりうれしく思っています。



式辞では、この3年間のかかわりを振り返って、彼らの功績について話をしました。

秦梨小は『学び合い』の考え方による授業づくりに取り組んでいます。そこで、大切なのは「一人も見捨てない」ということ。全員が課題を達成できることを目指し、自分のできることを考えて授業に取り組む。その姿勢は、日常の学校生活や行事の場でも度々見受けられました。困っている子や一人ぼっちで寂しいそうにしているのを見かけると、声をかけたり、小さい子には手を引いてあげたり……。優しさあふれる6年生でした。『学び合

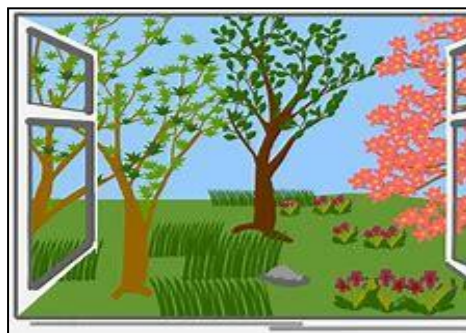
い』の授業は、主体的な学びを実現するたるために取り組んだことでしたが、人間関係力（コミュニケーション能力）や思いやり優しさの醸成にとっても大きな影響があることを改めて気づかせてくれたのは彼らでした。

それから「あいさつ運動」への取組。今の秦梨小のあいさつは、岡崎市一だと思えます。それを実現してくれたのも6年生です。「あいさつ運動」がなかなか広まらなかったとき、「あいさつしているつもりでは意味がない。思いが伝わらなければ……」と考え、代表・集会委員会と連携して「思いを伝えるあいさつ運動」を進めてくれました。

自ら進んであいさつをすることは、相手をまず認めるという意味（思い）を伝えることでもあります。真のコミュニケーションは相手を認めることから始まります。だから、「あいさつ」が大事なのです。彼らの取組を通して、そのことに改めて気づかされました。

秦梨小が取り組んできた『学び合い』の授業と「あいさつ運動」。その価値を具現化してくれた6年生に感謝をしています。

「キャリアパスポート」というものがあります。そこに、年度末に1年を振り返って「できるようになったこと」「成長したと思うこと」について書き記し、次の学年に引き継ぐことになっています。先日、全児童のキャリアパスポートを読みました。多くの児童が、声を出して「あいさつ」できるようになったと書き記していました。さらに、「自分からあいさつをするよう



になって、自分の気持ちを友達に言えるようになった」と書き込まれているものもあり、うれしく思いました。一方、授業については、「わからないことを友達に聞き分かるようになった」とか「友達に分かってもらえるようもっと勉強したい」といった内容が散見されました。秦梨小の教育活動が、子供たちの成長に貢献できたのかもしれないとひとりごちています。これから「あいさつ運動」や「ともに学ぼうとする姿勢」が、いっそう秦梨の子供たちに定着し、彼らの人間形成に役立ってくれることを願うばかりです。

来年度、秦梨小の児童数は46名で、1、2年生については複式学級が始まります。年々児童数が減少していくことには心配もありますが、秦梨小には小規模ならではのよさがたくさんあります。

私はこの3年間、秦梨小に勤務してそのことを実感しています。学年を越えて全員の子供が全員の友達のことを理解し思いやれる濃密な関係があります。また、大きな学校と同じような活動があるわけですから、一人も傍観者ではられません。必然的に一人一人の活動密度は濃くなってきます。地域の支えも大きい。こうした環境は、子供たちの成長にとって大きな力となっています。

来年度は、秦梨で学校生活を過ごしたいと他学区から4名の転入生も迎えます。新たなステージを迎える秦梨教育を今後ともどうぞよろしく願い申し上げます。